

総合型地域スポーツクラブの在り方に関する検討会議資料

# 総合型地域スポーツクラブが 豊かな社会づくりに対してできること についての考察

～ NPO法人高津総合型スポーツクラブSELFの取り組みから見てくるもの ～

NPO法人高津総合型スポーツクラブSELFクラブマネジャー 菊地 正

平成28年7月15日

## 目次

- 1、NPO法人高津総合型スポーツクラブSELFの概要
- 2、学校施設開放業務受託による地域資源有効活用と地域コミュニティ拠点創出への貢献
- 3、障害者スポーツの促進と障害理解啓発促進への貢献
- 4、企業との連携による集客力強化やイメージUPによるスポーツ産業発展への貢献
- 5、学校との連携による地域防災力の向上への貢献
- 6、総合型地域スポーツクラブの役割と意義

## 1、NPO法人高津総合型スポーツクラブSELFの概要

## ◎ NPO法人高津総合型スポーツクラブSELFの概要

【理事長】 平口 和宏

【所在地】 川崎市高津区久本3-11-2川崎市立高津中学校内

【会員数】 約1300名

【活動場所】 川崎市高津中学校ならびに川崎市立久本小学校施設

【運営会費】 一般会員1200円／月  
18歳以下600円／月  
シニア・障がい者600円／月

\* 年間割引も有り。

## ◎ 定期開催プログラム (2016年6月末時点)

- ・運動系 34種目40プログラム
- ・文科系 10種目12プログラム

合計 44種目52プログラム

\* 会員は全種目に参加し放題！



## ◎ 学校連携

- ・高津中学校連携防災教育プログラム開発
- ・高津中学校ふれあいフェスティバル講師派遣
- ・高津中学校の花壇整備
- ・久本小ふれあいフェスティバル参加



## ◎ 自主企画イベント

- ・親子田植え & 稲刈りツアー
- ・シニア日帰りバスツアー
- ・親子水泳教室 など



地域の  
ニーズ

## ◎ 受託事業 (平成27年度実施)

- ・川崎市高津スポーツセンター指定管理業務
- ・川崎市多摩スポーツセンター運営業務
- ・川崎市立学校学校施設地域管理業務委託
- ・地域の寺子屋事業委託
- ・高津区地域連携スポーツ事業実施委託
- ・地域における障害者スポーツ普及推進事業
- ・かわさき元気アップBody
- ・川崎市市制記念ボールゲームフェスタ
- ・富士通ゼネラル体育館管理業務
- ・川崎市フラッグフット小学校巡回指導



行政の  
ニーズ

◎ 平成27年度法人決算報告より概要抜粋

	収入	備考	支出
会費収入	6,970,000	クラブ会費	人件費 指導者謝金 備品購入費 賃借料 外注費 水道光熱費 福利厚生費 税金等
助成金収入	1,080,000	スポーツ振興くじ助成	
指定管理事業収入	170,000,000	高津スポーツセンター・多摩スポーツセンター	
民間委託事業収入	4,780,000	富士通ゼネラル	
学校施設管理事業収入	29,800,000	高津中学校・久本小学校	
その他事業収入	25,350,000	地域の寺子屋事業・学校丸ごと体力づくり事業・地域における障害者スポーツ普及促進事業など	
合計	237,900,000		

## 2、学校施設開放業務受託による地域資源有効活用と 地域コミュニティ拠点創出への貢献



## 『学校施設開放運営委員会』 (川崎市教育委員会委託事業:年間予算1施設あたり約30万円)

◎ 近隣市立学校4校(高津中学校・東高津中学校・久本小学校・坂戸小学校)の学校施設開放運営委員会の運営を受託。

- 《業務内容》
- ・施設開放運営委員会会議の開催と運営
  - ・利用団体の調整
  - ・施設の安全管理(施錠、消灯、清掃のチェック)
  - ・教育委員会への提出資料作成



## ◎ 施設開放運営受託学校の位置関係

高津中学校・東高津中学校・久本小学校・坂戸小学校の4校を同時に受託

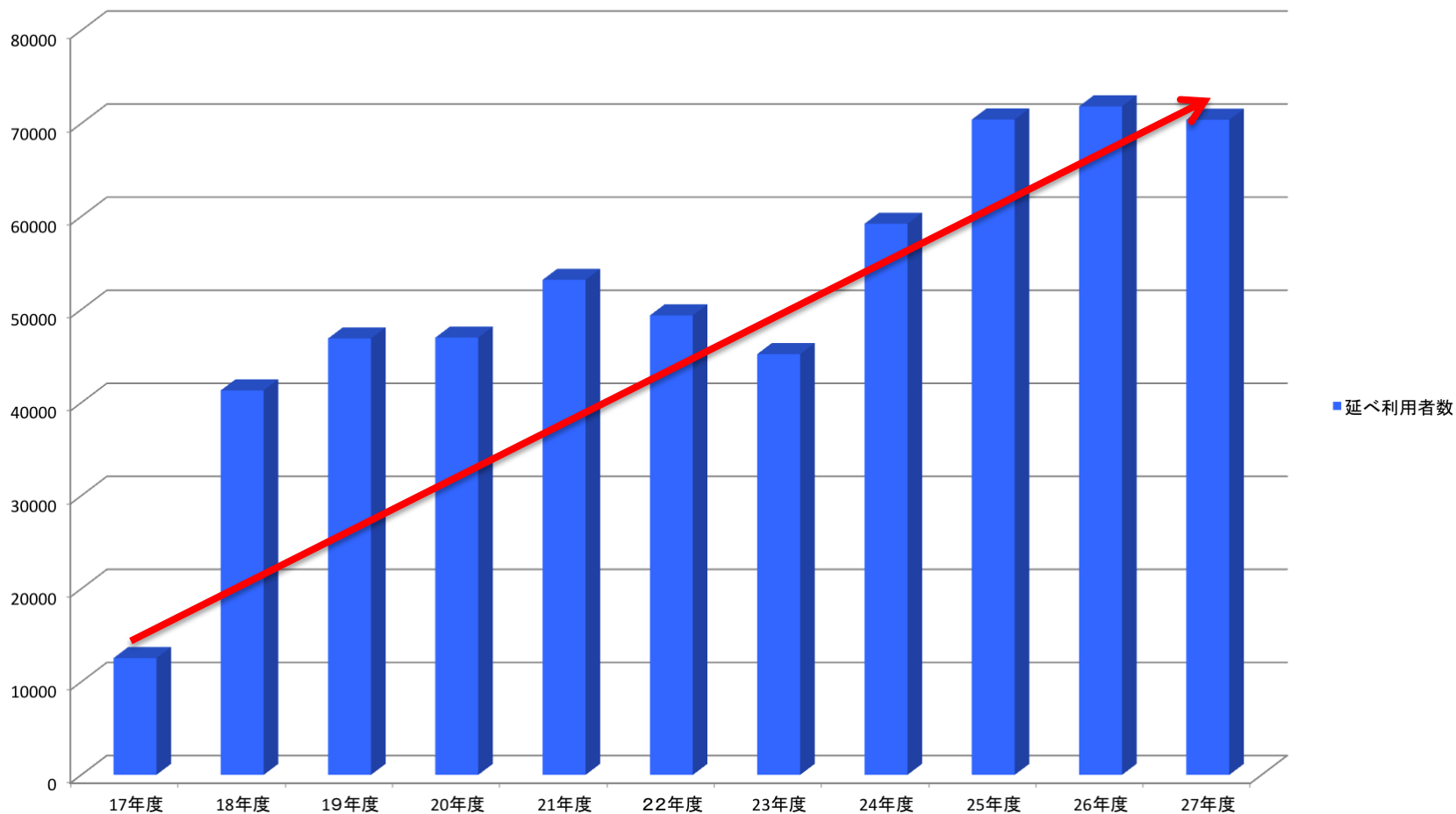


\* JR・東急線「溝ノ口」駅よりSELF所在地までは徒歩約15分

## ◎ 過去からの利用推移

### 学校施設開放利用者延べ人数推移

(市教委提出資料の平成17年度から平成27年度までの4校合計データを集計)



11年間で学校施設利用者が1万人から7万人に増加。

# 『学校施設地域管理業務』 (川崎市教育委員会委託事業:年間予算約2900万円)

◎ 市立学校2校(久本小学校、高津中学校)の学校管理校務員業務ならびに  
夜間休日警備業務を受託。

- 《業務内容》
- ・校内外の清掃
  - ・樹木の剪定、除草
  - ・校内備品等の修繕
  - ・自転者等整理
  - ・工作物作成
  - ・来校者管理
  - ・戸締り確認



## ◎ 学校施設を地域管理することで生まれるメリット

- ・教職員の業務軽減(報告事務、予算管理、運営委員会、施設等の管理)や学校側の負担削減に対する貢献
- ・利用調整推進より、広く多くの地域団体が活用できることに対する貢献
- ・地域人材雇用に対する貢献
- ・シニア世代の活躍の場創出に対する貢献
- ・生徒指導への協力貢献

### 3、障害者スポーツの促進と障害理解啓発促進への貢献

## ◎ きっかけは、地域の現状を知ることから始まった

養護学校教諭からのリアルな現況情報提供と相談がはじまり



- ・学校卒業後の社会参加機会の激減
- ・ストレスや運動不足による肥満や健康被害
- ・月の給金は1万円以下の方も多い

## ◎ 地域の現状について ～これまでの活動の中で聞こえてきた声～

- 【当事者や保護者の声】・・・ 学校卒業後は、競技型スポーツを行なう場はある程度あるが、健康づくり、仲間づくりの場や余暇活動の場としてカラダを動かし楽しむ機会が地域には少ない。
- 【地域の方の声】…………… 障害者支援などに関心はあるが関わる機会が無い。また、機会があったとしてもどうしたらいいのかが分からない。「不安」や「怖い？」という誤解。
- 【クラブの声】…………… 場所と道具は用意できるが、マンパワーが足りない。単発イベントはやれるが継続が難しい。



地域の中に、  
「知らないという障害」がある。

## ◎ 地域課題の解決に向けて

『地域支援者の活動機会の創出や、支援活動に対する支援』  
を行なう事が課題解決に繋がる。



- 1、誰もが関われるというイメージを実感できるような視覚的資料の作成
- 2、知らないことからくる活動時の「不安」をなくす為のサポートマニュアルの作成
- 3、活動の社会的満足度を達成する為の公式サポーター認定の提案と制度化

# 1、誰もが関われるというイメージを実感できるような視覚的資料の作成

地域における余暇活動の場。



\* youtube動画サイトにて「SELFハートクラブ」で検索。

## 2、知らないことからくる活動時の「不安」をなくす為のサポートマニュアルの作成

### ① 支援するというよりも、色々な経験をする「機会」を一緒につくる！

\* 障害者支援というと難しそうで気後れするかもしれませんが、「体験する機会をいっしょに創る」となれば子ども向け、高齢者向けのプログラムのように普段のクラブ活動と同じであることが理解頂けるでしょう。

### ② 相手の特性を知り、できないことを直すではなく、「できること」を伸ばそう！

\* 「機会を創る」ことがメインなので、出来る出来ないは二の次。できないことを必死にサポートするのではなく、その活動を通して「楽しめること」を再発見し、それを一緒に楽しく伸ばせれば双方の自信創造につながります。

### ③ 活動は「一緒に」やろう！

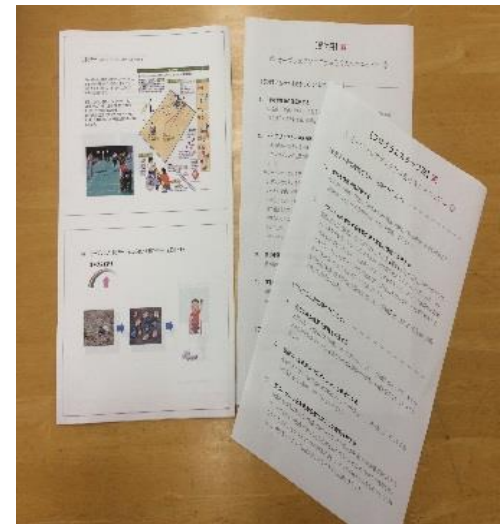
\* 見守ることやサポートを「しなくちゃいけない」ではなく、自分も参加者として一緒に楽しむことが重要です。一緒に同じ活動を行なうことで、心身ともに相互理解が深まります。

### ④ 「いまは何をする時間」かを常に明確にしよう！

\* 待ち時間(休憩時間)は不安な時間になりやすいため、今は何をする時間なのかを口頭で適時伝えたり、ホワイトボード等を書いておくなどすることで、参加者の安心度は高まります。

### ⑤ 「毎回、同じ」が安心を生む！

\* 常に新しい企画を考え続ける必要はありません。むしろ、はじめとおわりは毎回同じ動きをすとか、参加する時はいつも同じ服を着るとか。それが参加者の安心にも繋がりますし、運営側の負担減にもなります。



### 3-1、活動の社会的満足度を達成する為の仕組みづくり



地域支援者のボランティア参加回数に対応したポイントを発行し、その数に応じて生活用品(お米3kg等)を賞与する、「スマイルメーカー制度」を構築。

15ボランティアポイントでお米3kg進呈。

### 3-2、《かわさきオープンエアプロジェクト》 (文部科学省委託・川崎市受託事業)

#### a、小学生～高校生への障害理解啓発キャンペーン

→ 近隣小・中・高校との連携強化

#### b、地域が持つ障害に対する「不安」を取り除く為の人材の育成

→「オープンエアメーカー認定制度」の構築

#### c、障害があっても定期継続プログラムに参加しやすくなるような環境づくり

→ オープンエアプログラムの促進とスマイルポイントの活用

#### d、障害があっても「挑戦」することを楽しめるプログラムの開発

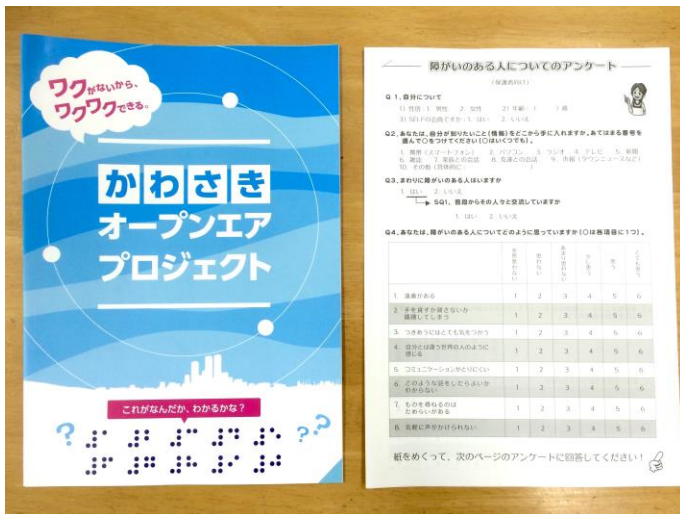
→ SELFハートクラブ&スポーツパーティーの開催(月1回)

### 3-2-a、《かわさきオープンエアプロジェクト》

#### ◎ キャンペーンアンケート

クラブ会員と、近隣の小中学校の児童生徒(小学4年生～中学3年生)ならびにその保護者を対象としてアンケート調査を実施。同時に障害理解啓発を促すためのパンフレットも配布。

\* 有効回答数: 児童生徒643・保護者519



### 3-2-b、《かわさきオープンエアプロジェクト》

#### ◎ 人材育成

- ・ オープンエアな状態とは…… 「気持ちがいい」状態のこと
- ・ オープンエアポイントとは…… 「気持ちよくなる」「心地よくなる」「笑顔になる」「嬉しくなる」という「**快的**」なポイントのこと
- ・ オープンエアメイクとは…… 「快的」ポイントを探して見つけて、実施すること



【オープンエアメーカー】とは



自分も周りも「快的」な活動環境をつくったり、「快的」な状態に導くことができる人のこと。



### 3-2-c、《かわさきオープンエアプロジェクト》

◎ オープンエアプログラム \* 2015年12月より開始

既存のプログラムに障害のある方も参加してもらい、  
障害の有無を超えて、スポーツに親しみ楽しむ為の機会を一緒に創る。



バドミントン、スナッグゴルフ、ウォーク&ラン、ショートテニス、キッズショートテニス、キッズ☆チャンバラ、  
立廻剣術、ダンス、ニュースポーツ、合気道など

## 3-2-d、《かわさきオープンエアプロジェクト》

### ◎ ハートクラブ & スポーツパーティー

ハートクラブは、主に知的障害のある方が集まり、色々なスポーツにチャレンジして自分の可能性と出逢う場。

スポーツパーティーは、障害の種別に関わらず、スポーツの語源により近づいて、五感で楽しむ場。

また、障害の有無にかかわらず地域の人が気軽に参加できるような機会を創出することで、相互の理解啓発を促進する。



## 【本プロジェクトの目標】

地域スポーツクラブにおける  
障害者参加率4%<sup>(\*)</sup>を目標値とし、  
それを継続的に可能にするための  
人材・情報・資金の流通システムモデルを構築する。

(\*)川崎市内の障害者手帳保有率が市人口の約4%

目標値例) 1300人の一般会員に対し、52人の障害者会員  
300人の一般会員に対し、12人の障害者会員  
100人の一般会員に対し、4人の障害者会員

・SELFは2016年1月現在、1300人に対し、24人の障害者会員

## 4、企業との連携によるスポーツ産業への貢献とイメージUP貢献

◎ 吉本興業との連携モデル事業

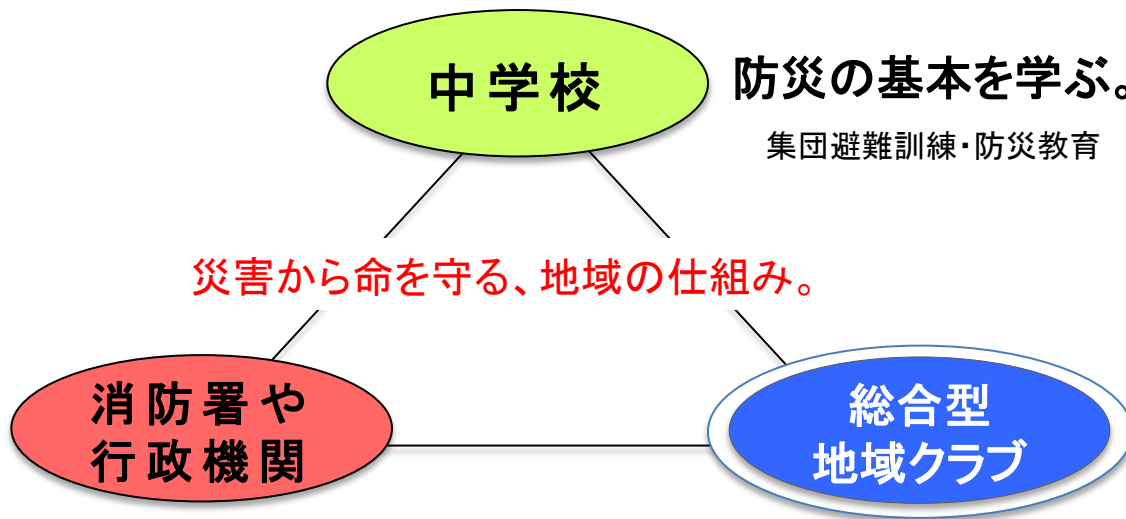
# よしもと × 川崎市総合型スポーツクラブ大運動会



## 5、学校との連携による地域防災力の向上への貢献

# 『地域の防災力向上』

- ・ 中学校総合学習授業の一環として「防災プログラム」を開発し毎年中学1年生全クラスに対して授業を実施。

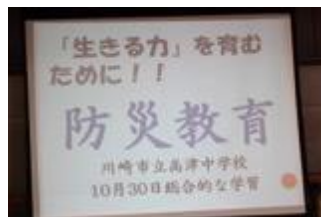


**地域の災害対応力を高める。**

図上演習・起震車体験

**普段から個人と家庭の災害対応力を高める「絆」が生まれる場をつくる。**

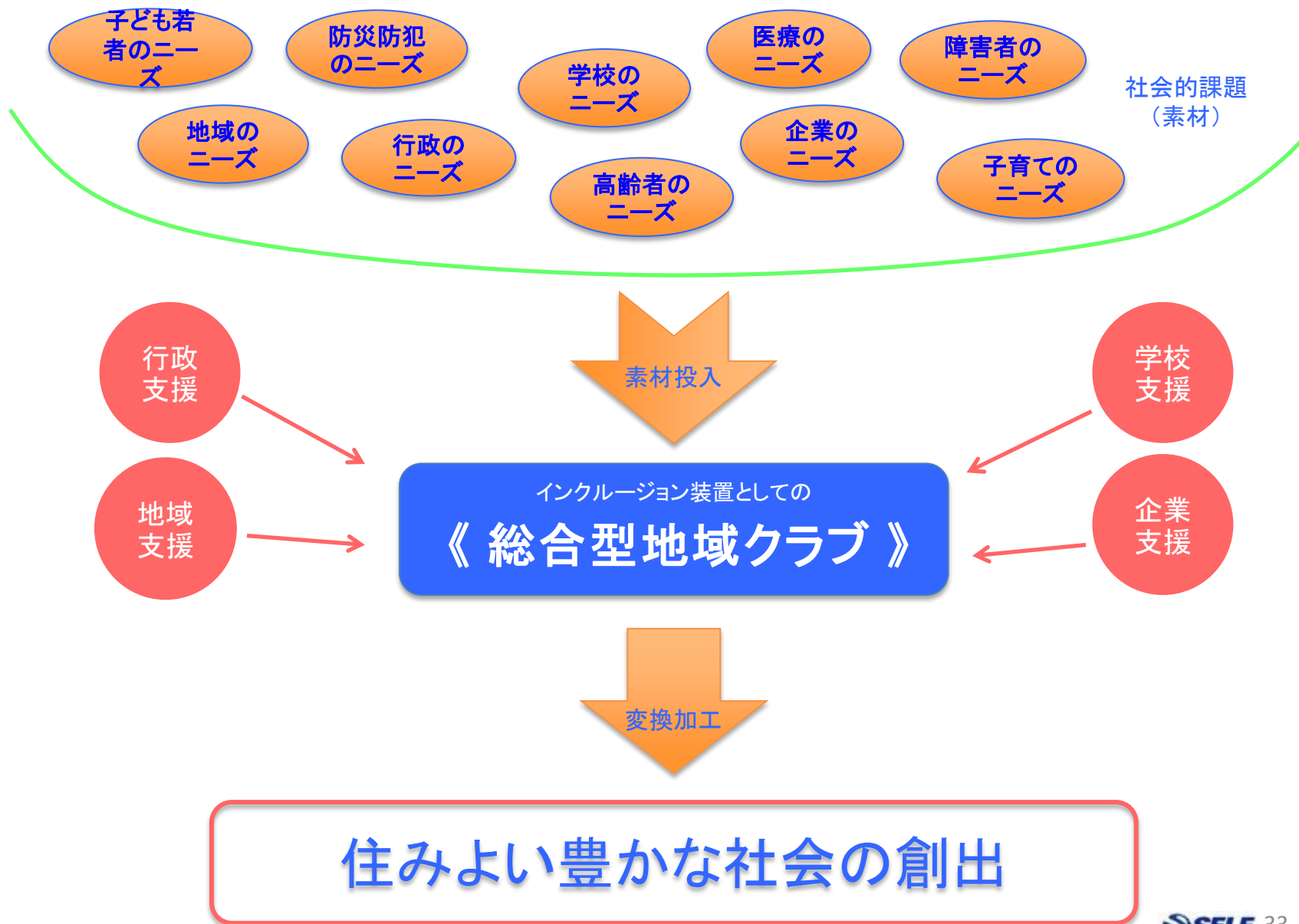
地域協働型防災プログラムの実施



## 6、総合型地域スポーツクラブの役割と意義



◎ 総合型地域スポーツクラブの役割と意義



## 《総合型地域スポーツクラブ》とは

地域住民の自主的・主体的な運営参加により、学校等の公共施設や企業施設、地域人材等を有効活用して地域ニーズに応える地域主体のスポーツクラブ。



スポーツを楽しむこと自体も目的のひとつではあるが、  
地域交流コミュニティの拠点として、  
子どもから高齢者、障害の有無に関わらず、  
全ての住民が集い、  
まちづくり・地域づくりを《総合的に》模索する場でもある。

地域のつながりを促進するための《装置》となる。